



※学・Viva：「Viva」は、「生きる」という動詞から生まれた言葉です。三重の「学び場」が生き生きするイメージで名付けました。

学校再開後、各学校では、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、授業時数の確保や子ども一人ひとりの学習内容の理解・定着状況の把握等、きめ細かい指導が進められているところです。しかしながら、学校現場では、長期にわたる臨時休校の影響により、「学びの保障」が大きな課題となっています。

そこで、今回は、文部科学省が、臨時休業及び分散登校の長期化などにより**学校の授業における通常の学習活動で指導をおえることが困難な場合の特例的な対応**として示している「学校の授業における学習活動の重点化」について紹介します。

### 学校の授業における学習活動の重点化

#### 《学校の授業で》

- ・ 教師と子どもたちの関わりを通して学習への動機付けを行い、学習の見通しを持たせる活動
- ・ 子どもたちどうしの関わりを通して考えを広げ深める活動
- ・ 実技、実験、実習等

◎学校でしかできない学習活動を重点的に取り扱う

#### 《授業以外の場で》

- ・ 漢字や計算等の基礎・基本の練習問題の取組
- ・ 自分の考えを書く（個人でできる活動）  
※家庭学習等を行う場合には、家庭や地域と連携を図り、家庭や地域の状況を踏まえ、個別に補充学習を行うことも大切です。

◎個人で実施可能な学習活動

### ◆ 学習活動の重点化のイメージ（例） ◆

【国語】授業では、それぞれに立場を踏まえて話し合ったり、文章を読んでまとめた意見や感想を伝え合ったりするなどの学習活動を行い、授業以外の場で、個人でも実施可能な学習課題を踏まえた文章を読んだり、自分の考えを書いたりする。

【算数】授業では、具体的な体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をしたり、問題発見・解決の過程において、意見を交流したりするなどの学習活動を行い、授業以外の場で、練習問題に取り組む。

今後、各学校において、上記に示した授業における学習活動の重点化等、子どもたちの「学びの保障」のための教育活動における工夫を進めるとともに、子ども一人ひとりの学習状況を把握し、一人ひとりの課題に応じた指導や取組をすすめていくことが、ますます重要となります。

- 「新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた学校教育活動等の実施における『学びの保障』の方向性等について（令和2年5月15日初等中等教育局長通知）」
- 「学校の授業における学習活動の重点化に係る留意事項等について（令和2年6月5日初等中等教育局教育課程課長・教科書課長通知）」



## ●●●オンライン研修講座「オンライン授業の進め方」●●●

講師：平井 聡一郎 さん（元小学校校長・文部科学省 ICT 活用教育アドバイザー）  
 実践報告：県立朝明高等学校 寺田 恵子 教諭  
 内容：講義 ・オンライン授業の進め方について  
           ・動画による熊本市内小学校の取組紹介  
           実践報告 ・県立高校のオンライン授業のスタートアップについて

6月19日（金）、県教育委員会では、「オンライン授業の進め方」について、Zoom を活用した遠隔研修を実施しました。

県総合教育センターを主催者として、県内各学校、そして茨城県の講師先生を、Web 会議システム「Zoom」によってつなぎ、オンライン上で 15:30 から約 1 時間、「オンライン授業のこれからについて」をテーマに研修を実施しました。

個人での申込のみならず、学校の研修会として申込をしていただくなど、166 校、566 人の申込がありました。受講者のみなさんの肯定的回答率は、活用度 85.5%、満足度 89.1%でした。

今回の研修内容は、県総合教育センター Web ページより録画配信する予定です。また、8 月と 10 月にも「オンライン授業の進め方」についての Zoom を活用した研修講座の実施を計画しています。

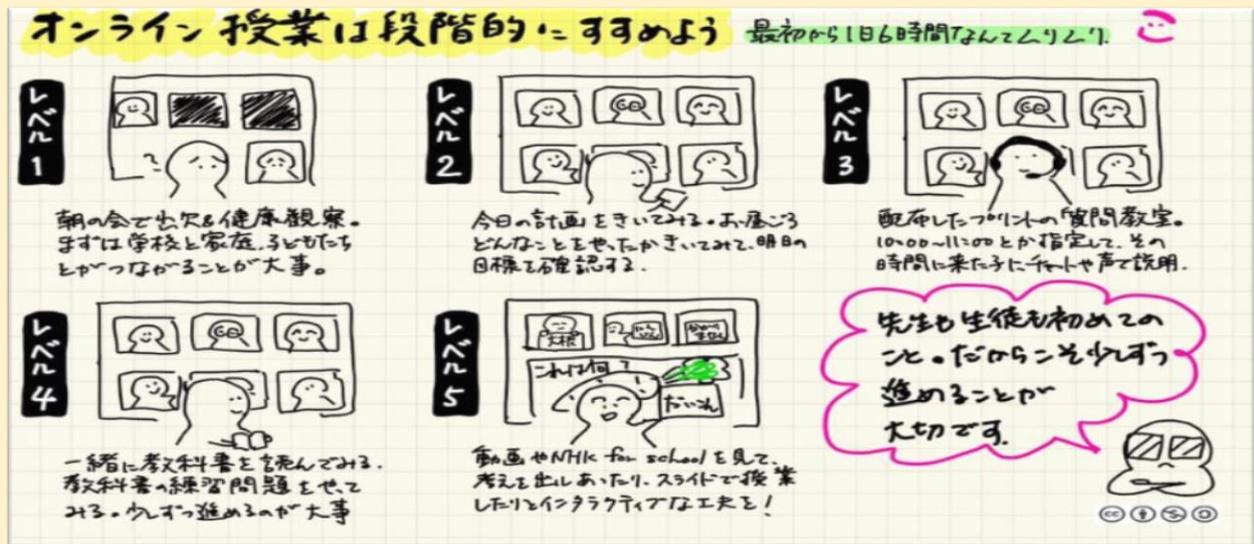
### 受講者の声

- ・とにかくオンライン授業をやってみる。細かい部分や高いレベルはとにかくスタートしてみる勇気が湧きました。時代や必要性が待ってくれないから。
- ・実際にこの休校中、本校では Zoom を使って朝のホームルームやオンライン授業を行いました。職員全員で模索しながら子どもたちのためにできたことが何よりの成果でした。
- ・離島・遠隔地などから場所を移動せず研修できることが何より有難いことです。時間の有効利用もできます。このような機会があれば、より自主的に研修でき学んだことを生徒に返すことができます。
- ・不登校児童等、学校に来ることが難しい児童たちへの学びの機会を与えることができるため、休校に限らず、前向きに検討していきたいと考えました。
- ・テンポが速く、言葉も難しくついていけなかった。

## ●●●オンライン授業はスモールステップで●●●

休業期間中には、それぞれの学校において、子どもたちの学びを止めないために、家庭での学習課題の提供、オンデマンド型の授業動画の配信、双方向のオンライン授業等、様々な対応を進めていただきました。

全国に目を向けると、オンライン授業については、休業前から先進的な取組を行っている学校や自治体が増えてきています。そこで、福岡県の公立中学校の先生が作成した資料を紹介します。



この資料では、5つのレベルに分けて段階的に行うことが勧められています。まずは、先生も子どもたちも機器に慣れることが最初のステップです。また、先生の一方的な講義形式だと子どもたち（特に低学年）の集中は続きません。どのようにすれば、子どもたちが学びに向かう姿勢を持ち続けることができるのか、工夫が必要です。まずは少しずつ、スモールステップでできることから始めてみるのはいかがでしょうか。

今後、感染症リスクへの備えを含め、様々な教育ニーズに応じていくため、各学校ではICT環境の整備、オンライン授業の体制の整備が必要となっています。

県教育委員会では、「オンライン授業でのクラウドサービスの活用方法」をテーマに、Zoom を活用した遠隔研修を予定しています。是非、受講してください。

◎7月30日（木）13:30~15:30 定員500人 ※申込〆切 7月16日（木）  
 「実践から学ぶクラウドの活用-G Suite for Education の活用講座-」

申込はこちら→[http://www.mpec.jp/page/02kensyu/php/skillichiran.php?kenbet\\_kbn=J&kenkou\\_cd=01](http://www.mpec.jp/page/02kensyu/php/skillichiran.php?kenbet_kbn=J&kenkou_cd=01)



# 小学校外国語科スタート！

小学校では、新学習指導要領の全面実施に伴い、高学年で外国語科が始まりました。移行期間では、文部科学省の教材「We Can!」を活用して、新学習指導要領の趣旨にそった授業の準備が進められてきましたが、令和2年度からは、教科書を活用した授業を展開していきます。

文部科学省は、新学習指導要領の趣旨にそって円滑なスタートが切れるよう、令和2年3月、小・中学校における各教科等の「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」を作成しました。小学校外国語・外国語活動においてもその指導方法や、授業の展開、評価方法等のポイントが示されています。評価の具体例だけでなく、児童の学習改善、教師の指導改善のためのポイントも示されていますので、ぜひ、ご活用ください。



事例は、「Let's Try!」、「We Can!」をもとに作成されています。

## 授業展開、評価例

### 「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 小学校 外国語・外国語活動」 第3編 単元ごとの学習評価について（事例）

p.77【事例4】<第6学年> We Can!2 Unit4 「I like my town.」（自分の住んでいる地域を知り、好きになる）  
p.79【第4時間／全8時間】

1	◆自分たちが住む地域について、相手に伝わるように、地域への願い（欲しい施設とその理由）などについて、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを話すことができる。
2	【Let's Chant】 I like my town. p.29 ○Small Talk：指導者の話（地域への願い）施設とその理由
3	【Let's Watch and Think 1】 p.29 ・登場人物がそれぞれの地域について説明し施設について話す映像を視聴し、分かったことを記入する。 【Let's Play 3】 Pointing Game p.30 ・ポインティング・ゲームをする。 ・選んだ施設名と、選んだ理由を言う。
4	○Let's Talk （地域に欲しい施設とその理由） ・指導者のモデルや、指導者と代表児童のやり取りを参考に、ペアで地域に欲しい施設とその理由などについて話す。
5	【Let's Read and Write】 ③ p.32 ・書く文例：（自分の町） is nice. I want a (nice library). ・音声を聞きながら読んだ（言った）後、自分の町の名前及び、ワードボックスから言葉を選んで書き写す。

別頁に、児童の学習状況を記録に残す「評価場面」「評価方法」「評価例」とともに、第1時からの継続的な「事前の手立て」や、評価結果を児童の学習改善や教師の指導改善につなげる「事後指導」についても示されています。

また、日々の授業で児童の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことが重要であるため、児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する必要があります。そのため、「児童の学習改善のためのポイント例」や「教師の指導改善のためのポイント例」がそれぞれの時間に示されています。

発	発
---	---

観点別の学習状況についての評価は、その時期や場面を精選する必要があります。

「話すこと [発表]」の記録に残す評価
◎自分たちが住む地域について、We don't have ～.や I want ～. などを用いて、欲しい施設とその理由などを話している。〈行動観察〉
◎自分たちが住む地域について、相手に伝わるように、欲しい施設とその理由などを話している。〈行動観察〉
・児童が話している様子の観察から、評価の記録を残し、第7時の評価の記録とともに、後日行うパフォーマンス評価に加味する。

1	目標を明確にもって授業を組み立てます。本時のめあては児童と共有します。
2	Small Talk は、①既習表現を繰り返し使用できるようにしてその定着を図る、②対話を続けるための基本的な表現の定着を図る、ことを目的とした言語活動の1つです。単元を通して計画をたて、本時のテーマを決めます。
3	「Let's Watch and Think」や「Let's Play」などを活用し、本時のめあてにつながる語句や表現を児童が聞いたり、話したりして、慣れ親しむようにします。
4	本時のメインになる活動（本事例では「Let's Talk」）に至るまでに、児童が音声に十分に慣れ親しむとともに、それらを用いて自分の考えや気持ちを伝える技能を高めておくようにします。
5	「Let's Read and Write」では、ワークシートなどを活用して、児童が音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を書き写したり、例文を参考に自分の考えなどを書いたりします。

授業の最後は、本時のめあてと関連付けながら、児童がどのような学びや気づきがあったのかなどを確認するため、振り返りの時間を設定します。